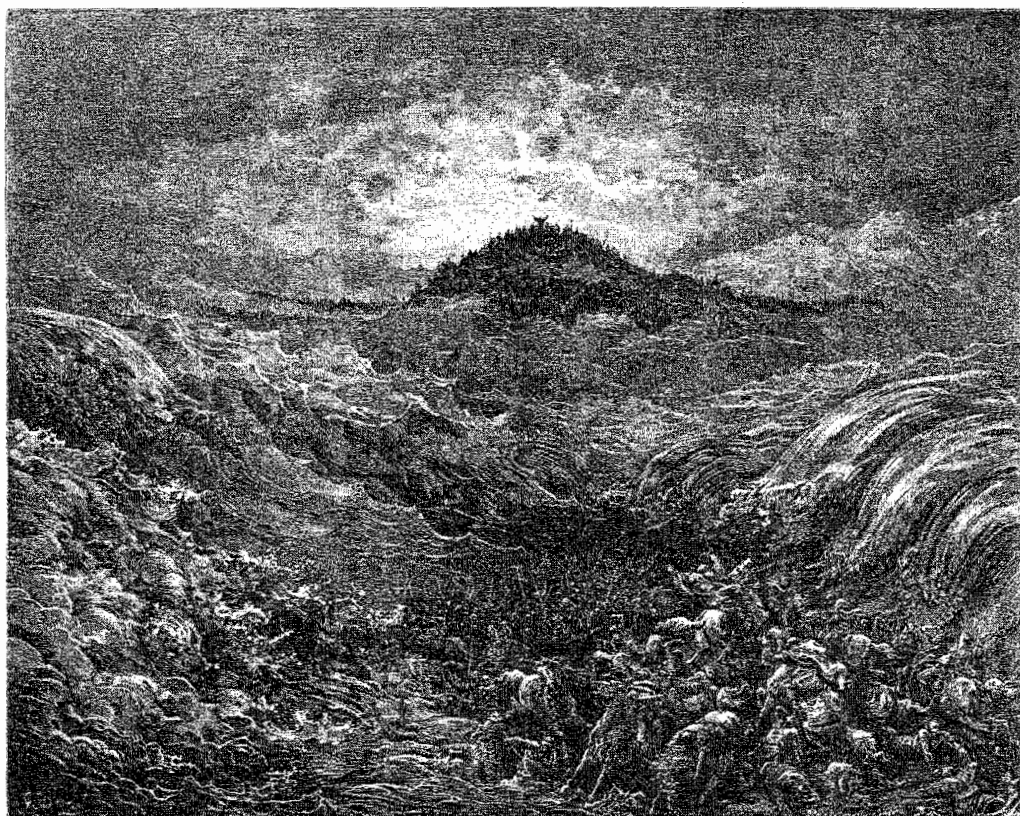




# Anchor

第30号

2003年4月



「ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない。...わたしは主、あなたがたの聖者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。海のなかに大路を設け、大いなる水の中に道をつくり、戦車および馬、軍勢および兵士を出てこさせ、これを倒して起きることができないようにし、絶え滅ぼして、灯心の消えうせるようにされる主」イザヤ 43:11-17

## 記事

- 紅海横断の真実—考古学が明かす驚くべき発見！
- 世界を湧かせる映画—「ハリーポッター」—大衆を魅惑する現代心霊術！
- ただ師匠を見つめて
- イエスを仰ぎつつ



## まえがき

ある兄弟から励ましの手紙を受け取った。「遠い国から来るよい消息は、かわいている人が飲む冷やかな水のように。」箴言 25:25。うれしかった。アンカー誌によって自分もセブンスデー・アドベンチストの信仰が保たれていると証してくれた。

「アンカー」の意味は、船が流されないように留めておくために綱や鎖をつけて水底に沈めるおもりの「錨＝アンカー」という意味以外に、マラソンなどの「最終走者」という意味もある。戦争と平和ムード、ハルマゲドンとミレニアム(平和の千年間)の狭間にあつて、セブンスデー・アドベンチストの先駆者たちが叫び続けてきた「時は迫る」「終末近し」「再臨の切迫」が「愛とケア」に置き換えられつつある今日、我々セブンスデー・アドベンチストはアンカー「最終走者」であるという意識も薄れつつあるような気がしてならない。

「人の子が現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう」と預言された通りなのだろう。ああ、こうした平和ムードの中にあつて預言の目で世界を見、教会を見ることができればと願うものである。オリンピックなど、正式のマラソン競技は 42.195 キロメートルに統一されているそう。兄弟はその数字を「死に行く覚悟」と読んでくれた。戦争のうわさで騒々しくなったこの状況でも、信仰をもってすべてを静かにごらんになっておられる我らの主を仰いで、再臨信徒らしい「完全な犠牲と全的献身」(初代文集 393)に導かれないものである。

「神はそうぞうしいこの世界の上に王として君臨なさっている。神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる、静寂な永遠のかなたから最善とみられるところを命令されるのである。」ミニストリー 391

イラク問題で世界は騒然としている。日本ではそれに加えて北朝鮮の問題もある。とうとう戦争に踏み切った。イラク攻撃賛成と戦争反対の声がほとんど全世界で叫ばれている。米英イラク攻撃は、国連、EUに亀裂をもたらしつつも断行された。軍事評論家、政治評論家、経済評論家が活躍している。我々には具体的な読みは困難かも知れないが、聖書の預言は、ハッキリと示している。新世界秩序構築にアメリカは「龍のように」語り行動するのである。国連の機能は大きく傷つけられたが、しかし、アメリカ、国連、そして世界支配張本人のバチカンはず必ず一つになって新しい方向に動いて行くであろう。

法王は戦争回避のために努力すると特使を送って約束した。ブレア首相にも、ブッシュ大統領にも法王は働きかけている。ソ連解体、共産主義諸国を民主化に導いたバチカンは、どんな高度な秘密戦略を持っているか我々には分からない。世界的な危機が作り出され、世界的な規模で平和への希求が大波の如く盛り上がったとき、平和の君として法王の指導を世界は仰ぐようになるのではなからうか? 「全地の人々は驚き恐れて獣に従う」という構図がまもなく作り出されるのであろう。

1ドル紙幣の裏をもう一度見ていただきたい。ラテン語で NOVUS ORDO SECLORUM、つまり「新世界秩序」という言葉が書かれている。アメリカ一国主義を確立する目的は、「新世界秩序」構築なのである。今度の戦争は、世界帝国としてその力を見せつけるためのデモンストレーションなのかも知れない。



ブッシュ大統領は、「新しい戦い」「新しい敵」と言つてアメリカ一国主義を打ち立てようとしている。まもなく新世界秩序が構築されると「最後の戦い」が展開される。その時、新世界秩序にとっての「最後の敵」は神の安息日を守るセブンスデー・アドベンチストである。全世界は、心をついにし、そして自分たちの力と権威とを獣(法王教)に与えるのである。その時、小羊と聖徒たちに戦いを挑んで来る(黙 17:13, 14)。

裏表紙の裏へ続く→

## 近年の驚くべき考古学的発見！

ノアの箱舟、ソドム・ゴモラの発見、イスラエル人の出エジプトから紅海に至るまでのルート(通路)の発見、シナイ山、契約の箱の発見！

真実を知りたいと思う方はぜひ読んで頂きたい

アメリカ人の考古学者で探検家、ロン・ワイヤットの近年の考古学的発見は多くの波紋を起している。しかし、聖書考古学上、最も重要な意味を持つ発見と言われている。今回はこれらの発見の終末的意味を考えてみたい。これらの信憑性についていろいろな反対、また質問が投げかけられている。私が調べて知っている限り解明してみたい。

私はその考古学上の発見とやりに信憑性を見いだせなかった。情報が全く予期しないところから来たからである。なぜ、それが私にとって重要なのか考えられなかった。自分は聖書を全く信じているし、今さら聖書の信憑性、聖書に記されていることは全く信頼できる正しいものであると証明する必要はないと考えていたからである。しかし、私はこの情報から三つのことを学んだ。まず、自分自身の聖書、また預言の確実性に対する確信がいっそう強められた。第二に、この最後の不信の時代に、神は、具体的に強烈な証拠を世の人々に提供される時が来たのだと思った。第三に、真実と思っていたことが伝説にすぎないことがあるという事実である。気をつけなければならないと思った。

なぜ、この情報に接するようになったかというところ、ある兄弟から、「自費で『契約の箱』の著者、ジョナサン・グレー氏を講演者として招待したいのでその通訳をして欲しい」と頼まれたことが始まりだった。グレー氏がオーストラリア人である故に、よほど慣れておかないと通訳できないと思ったので、ビデオや本を取り寄せて予習した。ただの通訳という軽い気持ちであったが、新しい真理に導かれる神のご配慮であったと感謝している。

具体的な問題を取り上げる前に考えてみたい。それは何か？

本物のように見えるまがい物があるし、偽りのように見えて真実なものもある。「日本人のクイズ」という番組は多くの人の興味をそそいでいる。それは多くの答えの中から一つの真実を見つけ出す楽しさがあるからである。真実と偽りが学問上の大論争となることがある。宗教界においても同じである。どちらも真実そうに見えるが、真実は一つである。創造論と進化論は未だに決着がつかない。真実でないものが一般受けすることがある。真理については多数決が判断の基準ではない。主の僕は次のように言っている：

「しかし大部分の人々は、真理を聞くことから耳をそらし、

作り話へと向かってしまう。使徒パウロは終末の時代を予見して、『人々が健全な教に耐えられなくなると言明した(テモテ第二 4:3)。その時がちょうど到来している。多くの人々は聖書の真理を好まない。なぜなら真理は、罪深い、世を愛する心の欲望を、妨げるからである。そしてサタンは、彼らの好む偽りを提供するのである。しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議(これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびたしい数にのぼって内容も千差万別である)、大衆の声、一これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、『主はこう言われる』という明白な事実をその裏づけとして要求すべきである。」大争闘下 360

今まで伝統的に教えられてきたものが、もし真実ではないことが分かったら、いさぎよく変える謙虚な態度と勇気をいつでも持ちたいものである。

聖書考古学界に一石を投じたロン・ワイヤット氏は、現在シナイ山と言われている場所に不信を抱き、シナイ山がアラビアにあるとの聖書の記述に従って探検していった(ガラテヤ 4:25、欽定訳、明治訳、大正訳、新改訳)。彼はまた、エレン・ホワイトを預言者と信じる歴史的セブンスデー・アドベンチストであった。彼は契約の箱についても、証の書に書いてあるとおおり、エレミヤがある洞窟に隠したことを信じていた。また、その中の十戒は日曜休業令の後に持ち出されることも信じていたという。

彼の考古学上の発見によって、多くの求める魂が聖書の確実性を信じ回心しているようである。2例を挙げてみよう。

一昨年12月、徳間書店出版の「契約の箱」の著者、ジョナサン・グレー氏が沖縄で講演した。彼はかつてはセブンスデー・アドベンチストの牧師、伝道者であった。後に彼は、オーストラリアの探検家、考古学者となり、古代史の謎を探るべく世界各地を探検するようになった。彼は最初、ロン・ワイヤットの考古学的発見があまりにも信じがたいことだったので、反論するために資料をケースいっばい詰め込んで意気揚々と、遺跡発掘をしているロンに会いに行ったそう。ところが、一つ一つ聖書の証拠と考古学上の事実を見せられ全く納得してしまっ

た。その結果、彼自身実際に遺跡の発掘、発見に携わったが、その感動に溢れ、招待される国々で考古学的福音伝道のために飛び回っているのである。

沖縄のジョナサン・グレーの講演に、ノルウェー出身の青年が合流して来島した。アーロン・センという青年である。彼の証を見てみよう。

「1995年のある日、ロンドンの街をフィアンセと歩いている時、ふと目についたものがあった。「ノアの箱舟発見！」というポスターであった。そのポスターにはソドム・ゴモラ、紅海へのルート、契約の箱についての講演もあると書かれていた。聖書について全く無知であり、これらのことについて何も知らなかった。ノアの箱舟のことは少しばかり聞いたことがあったので、それが本当に発見されたのだろうかかと半信半疑でいた。講演日になって会場に行ってみたが、教会に入ったことがなかったので非常に躊躇した。しかし、勇気を出して入り一番後ろの席に座った。初めてノアの箱舟の発見の詳細を聞いて驚いた。聖書に書いてある寸法と全く同じであること、確かにそれは人間の造った物であるという確証がつかめた。精巧な合金、化石化した木、金属リベット、デッキの梁、均等に張られた外側の肋骨材がボートの周囲に発見されていたのだ。

あまりにも興奮して、毎晩講演会場に通い詰め、週末にはクリスチャンになる決心をした。5日間の講演会で、聖書は真実なんだ、聖書に記されている奇跡は本当に起こったのだと信じられるようになった。配布されていた本を読んでも、日曜日が安息日であることを証明する聖句は一つもないことを発見した。そこで安息日を守る教会を探し始めた。そしてこれらのことを全部発見し

たロン・ワイヤットと接触するようになった。私もその働きに協力できないかと話してみると、彼は快く承諾し一緒に中東探検に連れて行ってくれた。私はヨルダン川で彼からバプテスマを受けたのである。その前に私は私のフィアンセとは別れることにした。彼女はクリスチャンになりたくなかったからである。すでに婚約をしていたので、彼女との別れは私の生涯にとって最もつらいことであった。しかし、どんな犠牲を払ってでも真理を探究し続けたいと思った。私の人生は全く変わったのである。以前はキックボクシングを教えていたが、今は探検隊に参加したり、福音伝道のために招かれるところで証するのを楽しみにしている。やがて私の理想とする立派なクリスチャン女性が伴侶として与えられた。結婚してもう1年になる。」

ちなみに興味のある人のために、彼のホームページを紹介しておく。[www.arkofthecovenant.co.uk](http://www.arkofthecovenant.co.uk)

ロン・ワイヤットの五大発見とは次のようなものである：

- ◆トルコ東部のアララテ山におけるノアの箱舟の発掘調査。
- ◆紅海でパロの軍隊の戦車、人間と馬の残骸を発見。
- ◆サウジアラビア北西部で定説とは異なる「真の」シナイ山を発見。
- ◆死海で定説と異なる場所にソドムとゴモラの遺跡発見。
- ◆エルサレムで、最も意義深い契約の箱の発見。

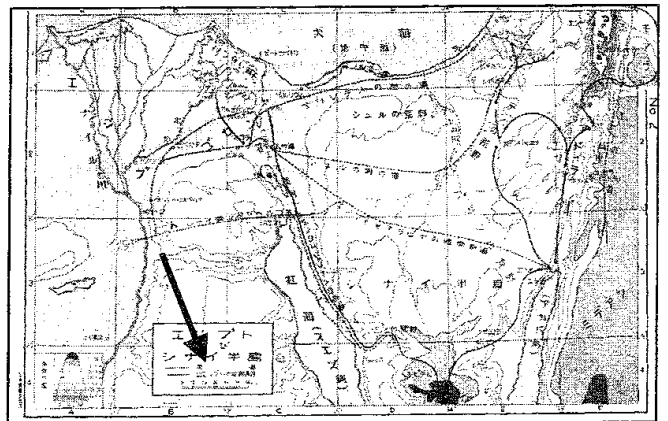
今回はその一つを取り上げてみたい。

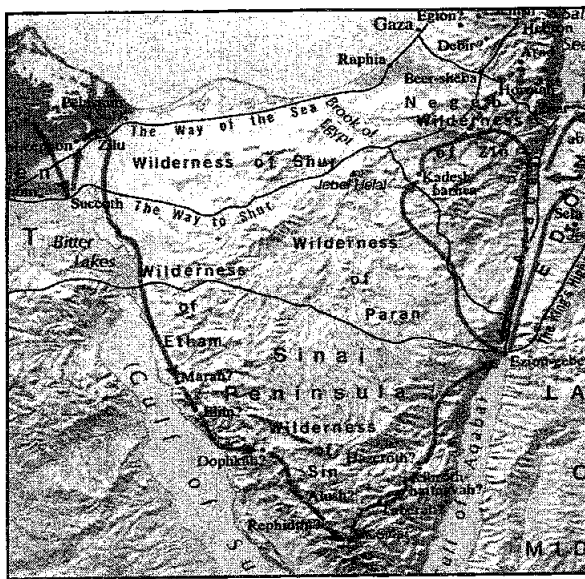
## 聖書地図を書き換える大発見—出エジプトから紅海へのルート！

### ほんとうのシナイ山はアラビヤにあった！

私と同じようにみんな、従来の出エジプトから紅海に至るルート（通路）は当然正しいものと思いこんでいたと思う。聖書に描いてあるのだから。しかし、地図は地図制作者によるものであった。彼らは、推測で描いたのであった。口語訳の聖書にも今まで気づかなかったが、なるほど推測通路と書いてある。聖書によっても地図の描写が異なるのにお気づきと思う。右のいのちのことは社の地図はまた違うのである。

次頁の地図は英語の聖書地図である。それを見ると、シナイ山に至る通路にある地名の、マラ？エリム？ドッカ？レビデム？等々に、？マークがつけてあるのにお気づきであろう。定かでないから正直な聖書地図制作者は、？マークをつけたのであろう。読者は虫眼鏡で見ないと見えないかも知れない。





紅海は二つの角を持っている。一つはスエズ湾であり、もう一つはアカバ湾である。よく地図を観察してみよう。従来の地図は、スエズ海峡をイスラエルの民が渡ったとするか、あるいは、スエズ湾さえ渡らず、かろうじて上方の紅海とも呼ばれないメンサレ湖を渡ったとしている。

そんなことは所詮後生の人間が想像でやったことだからどうでもいいと思うかもしれないが、私は聖書の記述が一点一画まで完全に信頼できることを示されて本当に感謝している。出エジプトをしたイスラエルの民がシナイ山まで通ったルートを聖書で確かめて頂きたい。このように全くあやふやな点のない真実な神に私の全生涯をまかせることができるということは、なんとすばらしいことであろう。

1992年に、ハービー・アーデンは有名なナショナル・ジオグラフィック誌(National Geographic)に次のように書いた：

「私は、聖書の出エジプトに記述されている地名や、... シナイ山に関することや、... 出エジプトのルート(通路)や、シナイ山の『本当の』位置や、... 火の柱が現れた場所など、... これらすべては不確かな推測であり、穀物の粒くらいしか、いやさばくの砂粒くらいしか信じられないものだと思うようになった。... 私は、スエズから約15キロ離れたウーン・ムーサ、すなわち『モーセの泉』に来てみた。... これもまたただの推測にしか過ぎなかった。」(1992年4月号、420-461)

ある人は、ほとんどの聖書学者たちは、紅海を渡ったと出エジプト14章に記録されていることは、スエズ湾か、Bitter Lake(苦味湖、あるいは苦湖)を渡ったとしているのではないかと反論する。世界的に有名なタイム誌のミカエル・レモニック氏は次のように言っている：

「ほとんどの学者はアブラハム、イサク、ヤコブは決して

実存したのではないと疑いを持っている。多くの者がエジプトでの奴隷の話、出エジプトの話に疑いを持っている。」(タイム誌、1995年12月18日)

我々は、大多数の学者の意見だからといってそれに信頼して安全であろうか？ 大多数の学者が進化論を唱えているからといって、大多数の一般人に進化論が受け入れられているからといって彼らを信頼し、その説を信頼するだろうか？ 聖書は次のように言っている：

「あなたがたは悪を耕し、不義を刈りおさめ、偽りの実を食べた。これはあなたがたが自分の戦車を頼み、勇士の多いこと(多数)を頼んだためである。」ホセア 10:13  
 「しかし神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議(これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびたしい数にのぼって内容も千差万別である)、大衆の声、一これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、『主はこう言われる』という明白な事実をその裏づけとして要求すべきである。」大争闘下 360

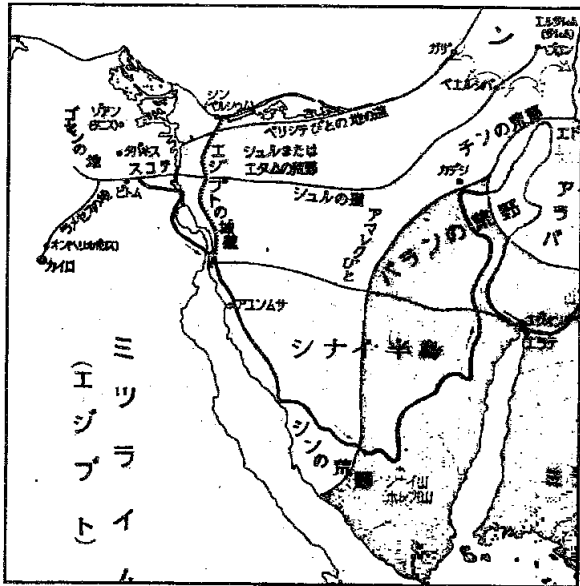
紅海を渡った事に関する混乱のもう一つの原因は、シナイ山の位置に原因がある。聖書地図にあるシナイ半島の南にシナイ山があるとしているのは本当だろうか？ 今日知られているシナイ山はどのようにしてそこに定められたのであろうか？ この事実を我々は知らなかった。紀元4世紀に意気消沈したコンスタンチン皇帝は、母君ヘレナ・カタリーナに彼が幻で見たことを発見するように頼んだ。彼女はシナイ半島を探した。シナイ半島と呼ばれているところは、パウロの300年後、出エジプトから約2000年経つまではその呼び名はなかったのである。母ヘレナは、勝手に今の位置がシナイ山だろうと考え200年後の、紀元527年に聖カタリーナ修道院を建てることになったのだそうだ。それ以来そこはクリスチャンのシナイ山巡礼の場所となった。紀元2000年にヨハネ・パウロ2世もイスラム教徒と一緒に巡礼しているのである。聖書よりも伝統を重んずることににおいてはご本尊のカトリックのやりそうなことだ。十戒を変え、安息日を変える権威があると冒涇を吐くカトリック教会のジェスチャーには驚きというより、あきれ果てる。余談になるが、中世時代には聖書を見つけ次第焼き捨てておきながら、今ではその聖書さえも自分たちが保存してきたと言っているのである。

## 出エジプトから紅海へのルート

イスラエルの民が出エジプトにおいてどのような経路をたどったのかを調べてみよう。

神が歴史に介入された記録で最もドラマチックなこと

の一つは、200万人以上のヘブル人がエジプトを脱出し、紅海を渡ったことである。ゲルマン民族大移動以上に、奇跡中の奇跡といわれる出来事であった。



最初の宿営地はスコテであった(出 12:37)。スコテからどう進むだろうか？

彼らは「武装してエジプトの国を出た」(出 13:18 口語訳)、武器で武装したのではなかった(あ上 325)。「編隊を組んだ」(欽定訳)のであった。モーセは偉大な軍隊の指揮者でもあった。ゴセンで「群衆を移動させるのに必要な組織と統制の用意はすでになされていたので、彼らは定められた指揮者のもとに隊を組んだ。」(あ上 323)

スコテからカナンに至るには二つの街道があった。

1. ペリシテ街道(出 13:17)、短距離
2. 紅海の荒野の道 (18 節)、南の方

彼らは南の紅海の荒野の道を通る。それは、紅海の二つの角、スエズ湾とアカバ湾に囲まれている荒野である。

伝統的な考えは、スコテに集まったイスラエルは、上の方に行ってメンザレ湖(紅海ではない)を渡って南下して、スエズ湾に沿ってシナイ山に向かうとなっている。しかしそれは、聖書地図制作者によって異なる。いのちのことは社の地図を見ると、スエズ運河の狭いところを

渡って南下している。

出エジプト 13:18 神は紅海に沿う荒野の道に、民を回らされた。イスラエルの民は武装してエジプトの国を出て、上った。〔口語訳〕

イスラエル人は編隊を組み、エジプトの国から離れた。  
〔新改訳〕

エジプトを出て最初の宿営地はスコテであった(ST2/2、1882)。紅海を渡る前に、彼らはスコテから紅海またエタムへと向かい、そしてミグドル、ピハヒロテに宿営する。紅海に沿う荒野の道は、欽定訳では「紅海の荒野の道を通して」となっている。「紅海に沿って」(あ上 324)ではなく、「紅海の岸に向かって」(原文)、「紅海に向かって」出発したのである(あ上 326、SDA 注解)。

エタムは、どこにあるのだろうか？

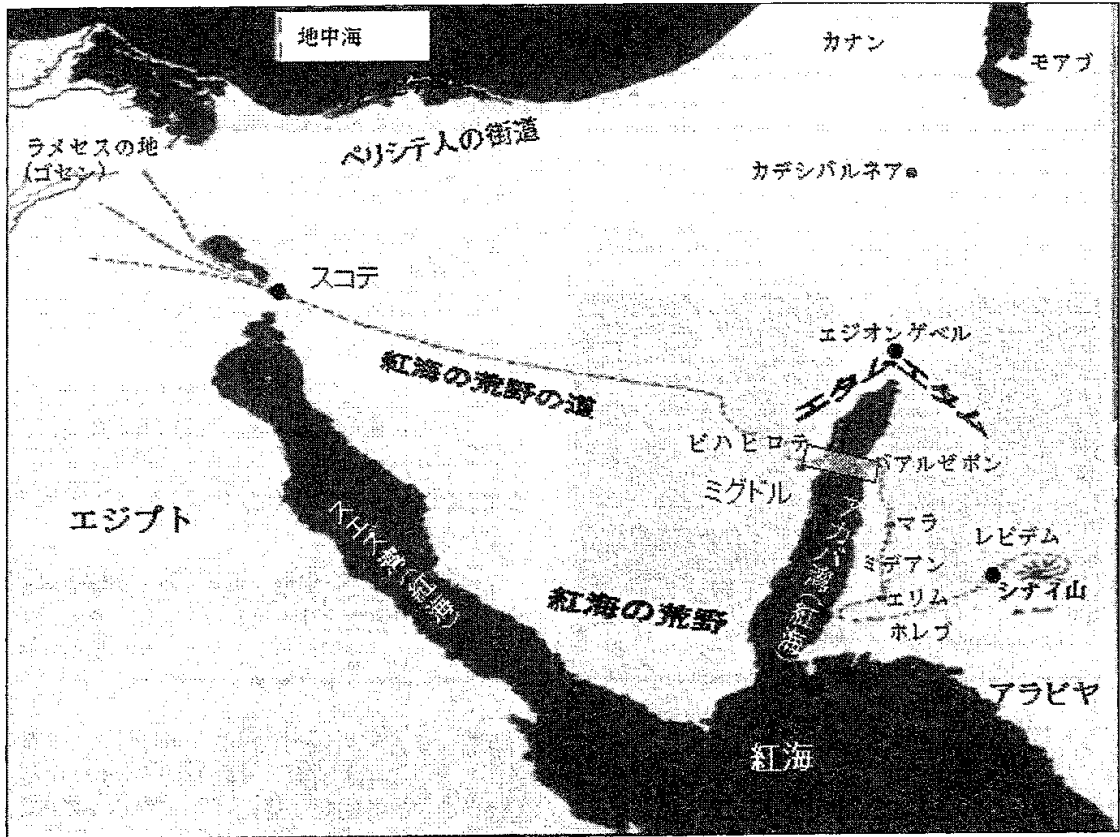
エタムは、一カ所の地名ではなく、地帯なのである。どうしてそれが分かるかという、出 13:20 を見ると「荒野の端」となっており、それは紅海を渡る前である。民数記 33:8 を見ると、紅海を渡って後なお彼らはエタムの荒野にいたのである。民数記 33:5 からは、出エジプトからヨルダンまでの旅程を簡単にまとめているので分かりやすい。

ピハヒロテはどこにあるか？

街道からイスラエルの民はエタムで「引き返し」て、南下する。海のかたわら、ピハヒロテで宿営する(出 14:2)。そこは「彼ら(イスラエル)はその地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった」とパロに言わしめるほど、険しい山々に囲まれていた。そこからイスラエルは、ただビーチに逃げ場を見いだすほかすべがなかった。ちなみにスコテ周辺は全くそんな環境ではないそうだ。



しかし、海の方には写真のように広大な現在ヌウェイバビーチと呼ばれるビーチが姿を現す。まさにここは200万人以上のイスラエルの人を収容できる広いビーチ。7キロ×3キロの広さである。紅海のビーチでここだけが聖書の表現にぴったり当てはまる場所だそう。紅海のどこにもこれほどの群衆を収容できるビーチはない。



ここは神が用意なさった場所だったのである。ロン・ワイヤットはこの神のご配慮に驚いた。

神は、エジプトでご自分のことをほとんど忘れたイスラエルの民に、その神性の力を顕して「人間の窮地は神の好機」であることを教えられた。

**彼らが渡った場所は浅いスエズ湾、**

**あるいは湖ではなく、**

**非常に深いアカバ湾であった。**

ある人は、イスラエルの民が渡った場所は、沼地か、浅い湖か、たった3～4メートルしかなかった場所だと反論する。たいした奇跡ではなかったとするのである。

### 1. まず、聖書の記述を見よう。

聖書記者たちは、紅海を渡ったことに関して何度も言及している。なぜなら、歴史においてこれと匹敵する事件は見あたらないからである。

#### ◆出エジプト 15:8

「あなたの鼻の息によって水は積みかさなり、流れは堤となって立ち、大水は海のものなかに凝り固まった。」 大水三深淵 (欽定訳)

#### ◆イザヤ 51:10

「海をかわかし、大いなる淵の水をかわかし、また海の深き所を、あがなわれた者の過ぎる道とされたのは、あな

たではなかったか。」

「深い海の底に道を開いて」新共同訳

#### ◆イザヤ 43:16

「海の中に大路を設け、大いなる水の中に道をつくり、」

「激しく流れる水の中に通り道を設け」新改訳

「恐るべき水の中に通路を開かれた方」新共同訳

#### ◆イザヤ 63:11, 12

「深みの底を歩ませた方」新改訳、欽定訳

#### ◆出エジプト 15:5

「大水は彼らをおおい、彼らは石のよう

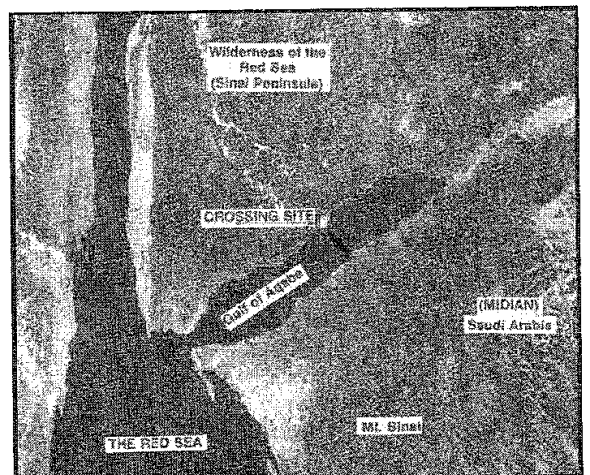
に淵に下った。」「大水が、．．深みに下った」

「深淵が彼らを覆い、彼らは深い底に石のように沈んだ。」

新共同訳

#### ◆ネヘミヤ 9:11

「石を大水に投げ入れるように淵に投げ入れ、」



「彼らの追っ手を海の深みに投げ込まれました。」  
 新改訳(欽定訳)  
 「荒れ狂う水の深みに投げ込まれた。」新共同訳  
 (～訳と書かれていないのは口語訳)

2. 次にロン・ワイヤットの発見した証拠を検証しよう：



馬のひづめ→



250万人(有名なユダヤ人の歴史家ヨセフスによる)のエジプト軍**全員**が3~4メートルの水の深さしかない場所で溺れ死ぬことが考えられるだろうか？それに比べてアカバ湾は非常に深く、あるところは1マイル(1,600m)もの深さがある。

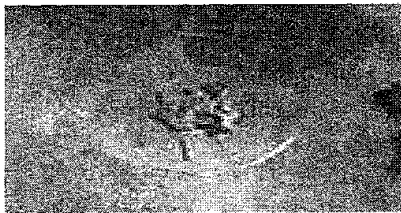
聖書記者たちが言っている正確な位置を知ることができた。ヌウェイバと、サウジの海岸に見つかった人工遺物のあったところまでの距離は、約18km(11マイル)である。その深さはどれ程であろうか？この道筋が一番深いところは800mである。

靈感を受けた聖書記者たちが、「大いなる水」と描写したのも無理はない。水が彼らの上に覆い被さったとき、エジプト人の誰一人として生き残らなかったのも無理はない。

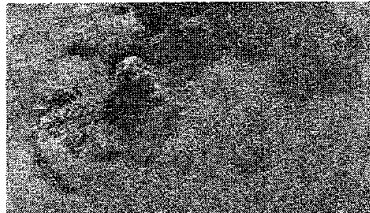
何年もの間、多くのダイバーたちが聖書の記録を確かめ人工遺物を見つけるためにスエズ湾を探索したが無駄骨であった。探検家、ジャック・コスティアは、スエズ湾全体にわたって遺物、特に戦車を探したが、何も見つからなかった。

しかし、注意深く聖書と出エジプトの歴史的記録に従っていくと、出エジプトはヌウェイバに導く。そこは、アカバ湾の広いビーチで、1978年にロン・ワイヤットが発見したところである。

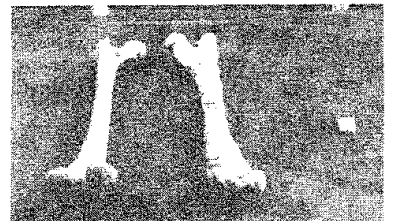
60~200フィート(18m~60m)の深さの海にもぐることは幾たびも繰り返し、延べ約2.5kmに及んだが、海底に戦車の部品が散らばっているのがあちらこちらに見つかった。



Actual coral covered chariot wheel



Shape of wheel -- enhanced image



海が干上がったとしても、アカバ湾は側面が険しい傾斜のゆえに歩いて渡るのは困難である。しかし、一か所だけ人間も動物も降りていくことのできる場所がある。それは、ヌウェイバビーチとサウジアラビアの対岸の間を結んでいる道筋である。

音響測深器による探検は、ヌウェイバから対岸に向かってなめらかで緩やかなスロープになっていることを発見した。磁気深度計によって、ここはまるで橋のように記録される。それは聖書に書かれていることを証明している。

見つかった人工遺物は、車輪、人間と馬の骨と戦車本体であった。ダイバーたちは、ヌウェイバの対岸つまりサウジの海岸沿いにも同様の残骸を見つけた。

1987年以來、ロン・ワイヤットは4本のスポークがつき、金メッキされた三つの車輪を見つけた。珊瑚は金には生えないため、形が非常にはっきりと残っていた。しかし、金張りの板の中は崩壊しており、動かすにはあまりにももろくなっていた。

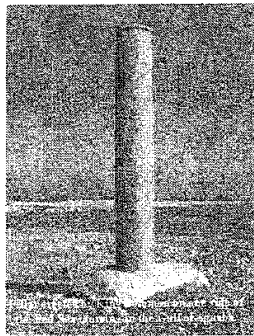
ダイバーたちの調査が進むにつれて次々遺物が発見されているようである。



## ソロモンの記念柱

ロン・ワイアットが1978年にヌウエイバを訪ねたとき、彼は水の中にフェニキア式の円柱が倒れているのを発見した。それは紅海を渡った奇跡を記念してソロモン王がこれらの円柱を設置したことを示している。

残念ながら、円柱に書かれた碑文はかなり浸食していた。その円柱の重要性は、1984年に2番目の花崗岩の円柱（最初のと全く同じような物）が対岸のサウジ海岸で発見されるまで理解されなかった。2番目に発見された円柱の碑文はなおそなわれていなかった。



フェニキア文字（古代ヘブル語）で書かれた碑文にはこのような言葉が含まれていた: ミズライム(エジプト)、ソロモン、エドム、死、パロ(ファラオ)、モーセ、そしてヤーウェー。

### さらに驚くべき事実、アカバ湾の深い橋

最も驚くべき事は、この深いアカバ湾に通れる道が備えられていたことである。あるところは1マイル(1,600 m)も深い。西側は45度の急激な傾斜。老人、赤ちゃん、動物、荷車を率いてイスラエルの民がそこを渡るのには全く不可能である。しかしこの場所ヌウエイバだけが、だんだんとゆるやかな傾斜で始まり、(6度から始まり真ん中ほどは深さ100メートル)、それから対岸に向けて緩やかに上がっていく。長さ850メートルの橋とも言える道があったのだ。その幅は900メートルもある。

おそらくこの隆起は、両岸から土砂が押し流されてつながってきたものであろう。大洪水の頃、神はイスラエルの民がこの場所を渡ることを予見してこの渡り道を

用意されたのではないか。

聖書の言葉は興味深い:

イザヤ 43:16「海のなかに大路を設け、大いなる水の中に道をつくり、」

詩篇 77:19「あなたの大路は海の中にあり、あなたの道は大水の中にあり」

イザヤ 63:12「水を二つに分けて」

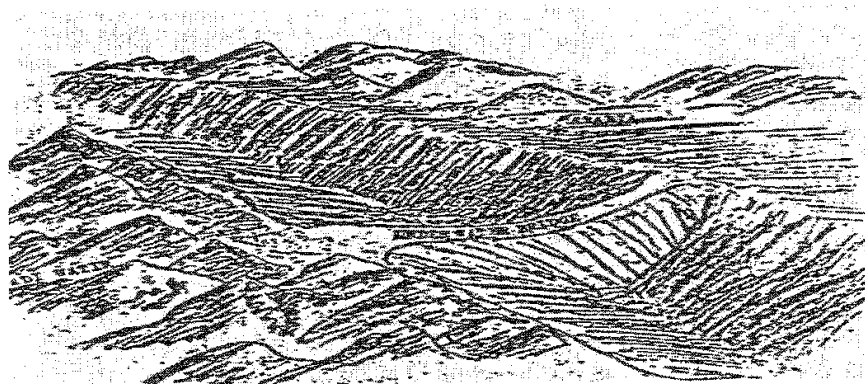
神は彼らを、両側が大きな壁となっているこの深い壑壕の中を通らせたのである。実に見事な神のご配慮に驚かされるばかりある。

### 1コリント 10:1-11に終末時代に対する警告がしるされている。

1. キリストによって生かされているのに、大多数は、神のみこころにかなわなかったので荒野で滅ぼされてしまった。

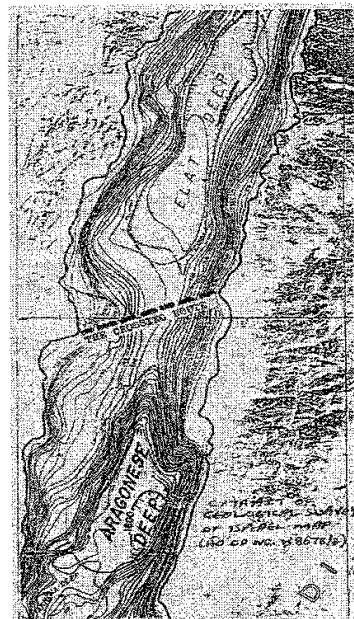
「イスラエル人が荒野を四十年もさまようことは、神のみこころではなかった。神は、彼らをまっすぐにカナンに導いて、彼らをそこで、聖く幸福な国民として定住させようとしておられた。しかし、『彼らがいいることのできなかったのは、不信仰のゆえで』あった(ヘブル 3:19)。墮落と背信のために彼らは荒野で滅び、他の者たちが約束の国に入るために起こされた。同じように、キリストの再臨がこのように遅れ、神の民がこのように長く、罪と悲しみのこの世にとどまることは、神のみこころではなかった。しかし、不信が、彼らを神から引き離した。彼らが神に命じられた働きをすることを拒んだときに、使命を宣言するために他の者たちが起こされた。イスラエルにおこった出来事は、わたしたちに対する警告であって、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒である。」大争闘下 182

「われわれの唯一の質問は、神のご命令は何か、神の約束は何かということである。これがわかれば、われわれは



Elevated ridge

Seabed



そのご命令に従い、その約束に信頼するのである。」  
希望上 132

### 大多数の神の民？

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰（立場-英文）を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンのもっと強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる。」  
大争闘下 378

## 2. 神の民の罪

### 悪をむさぼる罪

「神は、ご自分の民に絶えず進歩するように求めておられる。食欲をほしいままにすることは、知的進歩と魂の清めの最大の妨げとなっていることを学ばねばならない。」  
食事 41

マタイ 24:37-39、ルカ 17:26-30

### 偶像礼拝の罪

「人々は真理を否定することによって、その著者であられる神を否定している。彼らは神の律法を踏みつけることによって、律法の制定者であられる神の權威を否定している。偽りの教理や理論という偶像を刻むことは、木や石の偶像を刻むのと同じに容易である。サタンは、神の属性を誤り伝えることによって、人々に神についての誤った品性を想像させるのである。多くの人々にとって、主の代わりに哲学的偶像が王位を占めている。一方、み言葉の中に、キリストの中に、そして創造のみ業の中に啓示されている生ける神を礼拝する人は、少数にすぎない。幾千もの人々は、自然を神格化していながら、自然の神を否定している。形こそ違おうが、偶像崇拜は、今日のキリスト教界にも、古代イスラエルのエリヤの時代にあったのと同じように存在している。自ら賢人と称する多くの人々、哲学者、詩人、政治家、ジャーナリストたちの神、洗練された上流社会、多くの大学、はては幾つかの神学校などの神も、フェニキヤの太陽神バアルとほとんど変わるところがない。」大争闘下 345

### 不品行の罪

「『これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい』

(コリント第一 10:11,12)。サタンは人間の心を扱うのに用いる材料を熟知している。彼は数千年にわたり、うむことなく研究してきたので、あらゆる人間を最も容易に攻撃することのできる点を知っている。彼は各世代にわたって、ペオルのバアルにおいてみごとに成功したのと同じ誘惑により、最も強固な人間、イスラエルのつかさたちをくつがえそうと働いてきた。どの時代にも、官能の耽溺という岩に乗り上げて難破した人々が大ぜいいた。時が終わりに近づき、神の民が天のカナンの境界に立つとき、サタンは、昔と同じように、彼らをよい地にはいらせまいとして、いっそう努力する。彼はひとりひとりにわなをしかける。気をつけなければならないのは、愚かで軽々しい人々ばかりではない。彼は最も高い地位、最も聖なる職務の人々をも誘惑する。もし彼らをいざなうてその魂を墮落させることができれば、彼らを通して多くの人々を滅ぼすことができる。そして彼は今も、三千年前に用いたのと同じ手段を用いる。この世の交わり、美貌の魅力、快楽の追求、歡樂、安樂、飲酒などによって、彼は第七条を犯させようとする。」あ下 71

30年程前の北米セブンスデー・アドベンチストの統計である。一般の離婚率が51%、SDAの離婚率は49%というものであった。指導者、牧師、信徒に見られる現象は驚くべきものである。

### 主を試みる罪 つぶやきの罪

「シンの荒野を去ったのちに、イスラエル人はレピデムに宿営した。ここには水がなかったため、彼らは、また神の摂理を疑った。人々は盲目的に、そして僭越にもモーセのところへやってきて、『わたしたちに飲む水をください』と要求した。しかし、モーセは忍耐しつづけた。『あなたがたはなぜわたしと争うのか、なぜ主を試みるのか』と彼は言った。彼らは怒って叫んだ。『あなたはなぜわたしたちをエジプトから導き出して、わたしたちを、子供や家畜と一緒に、かわきによって死なせようとするのですか』(出エジプト記 17:2,3。)食物が豊富に供給されたときに、彼らは自分たちの不信とつぶやきを思い出して恥すかしく思い、これからは主に信頼しますと約束した。しかし、彼らはすぐにその約束を忘れ、信仰の最初の試みに失敗した。彼らを導いてきた雲の柱は恐るべき秘密を隠しているように思えた。また、モーセはいったい何者なのだ、いったい彼はなんの目的でわれわれをエジプトから連れ出してきたのだと、彼らはたずねた。疑いと不信が彼らの心を満たした。彼らはモーセが彼らの所有物によって私腹をこやそうとして、彼らを欠乏と苦難に会わせて、自分たちと子供たちを殺そうとたくらんでいるのだと言って、大胆に彼を責めた。怒りと憤りのさわぎの中で、彼らはモーセを石で打とうとした。」あ上 345

古代の預言者モーセに対するのと同じ仕打ちが、現代の預言者エレン・ホワイトに対してなされているような気がする。

エジプトを脱出したイスラエルの民の旅路における経

験は確かに起こったことである。神が彼らを驚くべき奇跡をもって守り導かれたことは事実であった。

「むかしのイスラエルの歴史は、再臨信徒の団体の過去の経験の、顕著な実例である。神は、イスラエルの人々をエジプトから導き出されたように、ご自分の民を再臨運動において導かれた。大失望のときに、彼らの信仰は、ヘブル人が紅海で試みられたような試練を受けた。もしも彼らが、過去の経験において彼らとともにあった神の導きの手に、なおも信頼していたならば、彼らは神の救いを見たことであろう。もしも、1844年の運動に一致して働いた者がみな、第三天の使命を受け入れ、聖霊の力によってそれを宣布していたならば、主は彼らの努力とともに力強く働かれたことであろう。輝かしい光が、洪水のように世界を覆ったことであろう。何年も前に、地の住民に警告は発せられ、最後の働きが完結して、キリストはご自分の民を救うためにおいでになっていたであろう。

イスラエル人が荒野を四十年もさまようことは、神のみこころではなかった。神は、彼らをまっすぐにカナンの地に導いて、彼らをそこで、聖く幸福な国民として定住させようとしておられた。しかし、『彼らがいいるのでできなかったのは、不信仰のゆえだ』あった（ヘブル3:19）。墮落と背信のために彼らは荒野で滅び、他の者たちが約束の国に入るために起こされた。同じように、キリストの再臨がこのように遅れ、神の民がこのように長く、罪と悲しみのこの世にとどまることは、神のみこころではなかった。」大争闘下 182

## 紅海横断と信仰による義認

なぜ、神はイスラエルをわざわざ最も深いアカバ湾の沿岸ピハヒロテに「閉じこめてしまった」のであろうか？

「神は、彼らを紅海にお導きになった。そこでエジプト人の追跡によって、彼らは全く逃げ場を失ってしまった。それは彼らが自分たちには全く力がなく神の助けの必要なことを悟るためであった。このようにしてのちに、神は彼らを救い出されたのである。こうして、彼らは神に対する愛と感謝に満たされ、神が彼らを救う力を持っておられることを確信した。神は、地上の奴隷生活からの救済者として、ご自分を人々に結びつけられた。しかし、さらに大きな真理を彼らの心に深く印象づけなければならなかった。彼らは、偶像礼拝と腐敗のなかで生活していたので、神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守るができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。」  
あ上 441

我々はその「はなはだしい罪深さ」を知るまではキリストの力に依存する必要を感じないのである。罪深きことを知るために海深きところを通らせたのである。

「律法の要求も知らず、罪の自覚もなく、心の変化も経験しないで、多くの者が教会に加えられるのを主の僕は嘆いておられる。」大争闘下 196

主の僕は、信仰による義認が体得されるならば、サタンの力が我々の内で打ち砕かれると言われた。

1888年に人間の唇から聞いたことのない最も尊いメッセージがわが教会に啓示された。それを受け入れたなら、後の雨/大いなる叫びをもたらすはずであった。御業は速やかに終わって天のカナンに入っていたはずである。

1888年のメッセージは、一口で言うと「我々は無、キリストはすべて」、「私自身では何もできないが、神にはできないことはない」ということであった。

主の僕は、別の言葉でこう言っている：

「信仰による義認とは何か。それは人間の栄光を塵にして、自分自身では何もできない人間に代わってなされる神の働きである。人間が自らの無価値さを見ると、彼はキリストの義が着せられるように、備えられるのである。」  
TM456

これが、「とうとい霊的な真理、すなわちわれわれが学ぶのに手間どり、また学んでもすぐ忘れがちな真理」（希望上 97）である。聖書が一貫して教えようとしているのはこれである。

パウロは、彼らはみな「海の中で、モーセにつくバプテスマを受けた」と言った（1 コリント 10:2）。信仰による義認は、①無償で一方向的に与えられる神のゆるしであるが、②水に沈められ、罪に、自我に死ぬ経験、③そして服従の経験がついてくる。この①②③はパックで与えられるダイナミックな経験である。

後の雨/大いなる叫びにあずかり、神の民イスラエルの栄光が全地に満ちるためにはこの経験を経なければならぬ。

なぜ、イエスは今至聖所で「わが血、わが血、わが血」と最後の仲保をしておられるのだろうか？

キリストは今、天の至聖所で何をなさっているのだろうか？

「キリストは、ご自分の民のために、完全に十分なゆるしと義認を嘆願なさっているのである」（大争闘下 216）。  
「こうして、新しい契約が完全に成就する。」同

イエス・キリストは何を待っておられるのだろうか？

我々が信仰による義認を体験することである。それは、「自分は全く無、キリストがすべて」「人間の栄光を塵にする」経験である。「人にはできないが、神にはできないことはない」ことを信じる心である。

紅海は深くなければならなかった。信仰による義認は、紅海横断と同じように奇跡である。

教会がそれを学ぶまでは、荒野をさまよいつけるか、  
あるいは近い将来やってくるエゼキエル9章の「しるし」  
を受けないまま滅びるかのどちらかであろう。

次号はシナイ山について考えます。

他の発見については「ディスカバリー タイムズ」をごらんください。

近年五大考古学発見がまとめられた新聞が翻訳されました。

A3版8頁、カラー写真がたくさん載せられています。

1部 200円

## The Discovery Times ディスカバリー タイムズ

すべてのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんへ



# ハリー・ポッターの暗い世界

## 大衆を魅惑する現代の魔術!

ヴァンス・ファーレル著 鎌田 幸江訳

ハリー・ポッターの本は400万部以上印刷され、40ヶ国語に訳され、130ヶ国に出回っている(2002年11月の時点で、世界1億6000万部突破のベストセラー)。ビデオも100万本以上の売れ行きだ。アメリカの出版社、スカラスティックは、その売上から2億ドルの利益を得た。著者であるJ.K.ローリングは、今やイギリス一の大金持ちの女性であり、作家という職業によって億万長者になった歴史上最初の人物である。

これまでに発行された4作は、次の通りである。

- ハリー・ポッターと賢者の石 (1997)
- ハリー・ポッターと秘密の部屋 (1999)
- ハリー・ポッターとアズカバンの囚人 (1999)
- ハリー・ポッター炎のゴブレット (2000)

その他にも未発行のものが3作あり、合計7作が計画されている。7は魔法の数字だとローリングは言う。

それはまるで、魔法の呪文が世界中に降りかけられたようだ。誰もがこれらの本や関係グッズ等を購入し、のめり込まねばならないかのように…。あらゆる種類の子供のおもちゃ、人形、カード、ゲーム、コスチューム、コンピューターゲーム、かばん、キャンディなどが販

売されている。ワーナー・ブラザーズは、ハリー・ポッター全7巻に合わせた映画製作の契約を交わした。

「ハリー・ポッター現象のようなものは、児童書の中では前例がない」(エディター、ダイアン・ロバック USA)

Today, 1999年12月2日)。

「まったく驚嘆させられる。ハリリー・ポッターの成功は一種の魔法の力によると考えたくなくなってしまう」(スカラスティック代表、ジーン・フェイウェル Los Angeles Times, 1999年10月22日)。

教師がオカルト儀式を含む「ハリリーの世界の起源とミステリー」を通して生徒を教えることができるように、教科書やスタディーガイドが準備されている。(「児童書専門家は言う、ハリリー・ポッターは子供の教育において両親と教師の助けとなれる」PR Newswire, 2000年8月17日参照)。

ピーチャム出版は、「魔女、ドルイド教、女神崇拜、また今日のアメリカに存在するその他の異教」を含むありとあらゆる「教師の助け」と共に、ハリリー・ポッター史料集を教師向けに出版した。

最近のギャラップ世論調査では、18歳以下の子供のほぼ3分の1はハリリー・ポッターを読んだことがあるという結果が出た (Breakpoint, 2000年7月14日)。

「子供たちからダンブルドア校長宛に手紙が届くのよ。そして本気でホグワーツ魔法魔術学校に入れて下さいと頼んでくるの。その中のいくつかはすごく悲しいものよ。彼らはそれが実話であってほしいと望むがあまり、真実だと信じこんでしまっているの」(ローリング、Newsweek, 2000年7月1日)。

J.K.ローリングは、ハリリー・ポッターのアイデアは1990年のある日、電車に乗っている最中に突然ひらめいたと主張している。そこで彼女は書き始め、書いているうちに次々と浮かんできたというのが彼女の説だ。

「ハリリーのキャラクターは、私の頭の中にやって来たの。…彼は本当に突然やって来て私の心に向かって自己紹介したのよ」(ローリング、Reuters, 2000年7月17日)。

彼女を信じた読者は、本の内容は単に彼女の空想だと思ってしまう。しかし、そうではないことを私たちは発見する。

ローリングが現役の魔女でないのであれば、彼女は魔術の最も暗い部分を深く研究しているに違いない。そしてそれを彼女の七つの本に注ぎ込んでいるのだ。ハリリー・ポッターのシリーズは、魔術のあらゆる不気味な局面を教えている。省かれているものは何もないのである。

著者のジョアン・キャサリン・ローリングはスコットランドで育った。彼女は、子供の頃から魔術についてできる限りのことを学ぼうとしていたことを隠している。

イワン・ポッター (子供時代の友人で、彼の名字を本のタイトルに使った) によると、ローリングはいつも魔女の格好をしていた。イワンの妹のピッキーも、子供時代のその頃のことを覚えている。

「私たちが一番好きだった遊びは、魔女の格好をすることだったの。着替えて、いつも魔女ごっこをしていたわ。兄は魔法使いの格好をして…。ジョアンはいつも私たちに魔術の本を読んでくれていたわ。…私たちは彼女のために魔法薬を作るの。いつも彼女はその薬のために小枝を取りに行かせていたわ」(イワン・ポッター&ピッキー・ポッター ダニエル・デメトリュー著「ハリリー・ポッターとインスピレーションの起源」より)。

ローリングは魔術に関係していたことを隠そうと、魔術についてはほとんど知らないし、本当に興味もないと主張している。

「本を読んで、私のことをオカルトの支持者だと本気で思う人がいるのには、まったく困惑しているわ。私は彼らが言っているようには魔術を信じていないし、私の本の中で描写されているような魔法も信じていないのよ」(Success Stuns Harry Potter Author, 2000年7月6日)。

しかし、1999年のインタビューの中で、ローリングは本を書く過程において、神話、魔術、そして呪文の正確な言葉を研究したことを認めた。

「ある程度のリサーチはするわ。民間伝承は本ではすごく大切なことよ。私が怪物や通常効くと信じられてきた呪文について書く時は、—勿論効かなかったわけだけど、…正確な言葉を調べ、怪物や幽霊の特徴を正確に調べるの。…魔術書のほとんどは、イギリスの人々が一般に信じていたことなのよ」(J.K.R. ナショナルパブリックラジオのインタビューより 1999年10月20日)。

ローリングは、彼女が現在、読者の間に広めている呪文は、魔術師たちが今でも使うものであるという事実を隠している！悪魔崇拝に手を出すならば、悪魔は私たちの心に働き始めるのである。

あるインタビューの中で、一人の魔術師が電話口で興奮しながら彼女に尋ねた。あなたは「クラフト」(魔女が所属する組織 Wicca) のメンバーなのかと。彼女が否定すると、彼は驚いてこう答えたのである。「じゃあ、よっぽど研究したんですね。彼は、彼がポッターの本が好きなのは、彼が日常使っているのと同じオカルト形式が満載されているからだ」と続けた。

世間のメディアは、ハリリー・ポッターに夢中である。まるでそれは一つの霊に支配されているかのように。また、キリスト教のメディアでさえ、そのほとんどは、小さな子供たちが魔術に深入りすることを学ぶこの最高の機会に賛成しているというのが不気味でならない。例を挙げよう。

「ハリリー・ポッター・シリーズに描かれている魔法は、Wicca グループの自らを神とする魔術とはほとんど似ても似つかない」(ハリリー・ポッターが好きな理由、Christianity Today, 2000年1月10日)。

「Wicca」とは、公式宗教としての魔術に与えられ

た名称で、ジェラルド・ガードナー（1884-1964）によって20世紀に創立された。

ローマ・カトリックの新聞First Thingのある記事で、フィートン大学のアラン・ジェイコブはこの小説を「最高に楽しい」ものだと描写し、登場する魔法についても「チャーミング」だと述べ、「このような本は、至極まじめに道徳を説いている可能性さえある」と付け加えている（First Thing, 2000年1月号）。

自らをクリスチャンと称するチャック・コルソンは、「ブレイク・ポイント」という彼のラジオ番組で、おとぎ話は無害であり、ローリングの本のキャラクターは、「勇気、忠誠、お互いのために喜んで犠牲を払うこと」を例証しており、「それは自己中心の世の中において、なかなか良い教訓である」と述べた（チャック・コルソン、ブレイク・ポイント、1999年11月2日）。

アメリカ一流のクリスチャン誌はこう言っている。「ローリングのシリーズは、若者にとって刺激のある道徳本である。笑い飛ばすシーンの中には、同情、忠誠、勇気、友情、そして自己犠牲までも素晴らしい実例が含まれている。これらの信用できるキャラクターのようになりたいと若い読者が思うのも無理はない。これこそ私たちが感謝すべきクリスマス・プレゼントだ」（ハリリー・ポッターが好きなら理由、Christianity Today, 2000年1月10日）。



....

ハリリー・ポッター・シリーズの43パーセントが、14歳から34歳の人たちに売れており、29パーセントは35歳以上の人たちに売れているということは興味深い。

### ハリリー・ポッターは何を教えているか

魔術に関係しない人々は劣っており、知能も劣り、真実をとらえるのが遅いということ。彼らは本の中で「マグル」と呼ばれている。しかし、ローリングはあるインタビューで、彼らは「まったくバカなわけでもない」と言っている（Associated Press, 2000年7月6日）。

正しい事をする人々にはうるさい人物として描かれている。登場人物の中でただ一人だけが道徳的素質をもっているようである。女子生徒ハーマイオニーだ。しかし、彼女がハリリーに規則に従うよう嘆願する度に、彼はばかにして、彼女に意地悪な話し方をする。物語の一部に、ローリングはハーマイオニーを「しったかぶりの威張屋」「気分屋」と付け加えている。

両親は避けるべき対象であり、服従すべきではなく、逃れておくべきである。夏休みの間、ハリリーの世話をする家族は、彼を部屋に閉じ込めておくのに忙しい（秘密の部屋 p34）。ハリリーの世界では、これが両親というもの

なのだ。

....

悪行が賞賛される。ハリリーとその友人たちは、悪いことをする度に先生たちや他の生徒たちから誉められ、賞賛される。ハリリーは常に規則を破り、悪いことばかりしているが、罰を受けることがない。そればかりか、彼の行為は、賢く、刺激的で、更に冒険するための方法だと言われている。「女神の契約」の創立者、スターホークが説明しているとおり、「魔術では、利己主義と戦うことなどしない。我々はそれに従うのだ」（スターホーク、スパイラルダンス p76）。ポッターの本では、規則は破るためにあり、嘘は望みの物を手に入れるための有効手段である。生徒も大人もみな常にお互いに対して嘘をつき、後になってそれを笑うのである。ハリリーの親友であるハグリッドは、それが彼の人生をもっと幸福にするかのように常に酔っ払っている（第3巻だけでも5回）。彼はそうすることによって決して苦しむことがない。

「私はとっても道徳的な本だと思うわ」（ローリング、BBCインタビューより、1999年10月17日）。

「一巻一巻にテーマがあり、...人生の選択という観念で、良い人間になるという意味を子供たちのうちにつくりあげる」（精神分析医リンダ・ゴートナー、ABC ナイトライン 2000年7月7日インタビューより）。

....

憎しみと復讐劇がたびたび繰り広げられる。真理と公正ではなく、権力と暴力とが追求されるべきゴールとなっている。子供たちは、意地悪や利己主義、おぞましいシーンに興奮を見出すことに慣れて育っていくのである。

ハリリーは、「友人をうっとりさせ、最新の復讐方法で敵を困らせ」る「呪いのかけ方、解き方」という本を見つける（賢者の石 p122）。

最も恐ろしい悪夢よりもひどいシーンが子供たちの敏感な頭脳に焼き付けられる。これらのショッキングな事柄に子供たちの目はくぎづけになり、精神は、非常に邪悪なアイデアや行為に影響を受けやすくなる。....

殺人や動物の殺害が幾度も繰り返される。「炎のゴブレット」だけでも、マグルは「拷問され」、彼らの殺害は「楽しみのため」になされる。三人の魔法使いが殺され、ある夫婦は、気が狂うまで拷問される。セドリックはハリリーの目の前で殺される。一人の子供は、自分の父親を殺した後、魔法で骨に変えて埋める。このようなシーンは、新巻が出る度にひどくなっている。

「一般文化の暴力からの解放を期待している親は、ローリングが彼女のおとぎ話の中に取り入れている暴力の量に驚かされるであろう。伝統的子供の物語で、これほど暴力が含まれているものを私は知らない」（評論家、

リー・シージェル、The New Republic、1999年11月4日）。

死後の生命、輪廻が教えられている。死は、さらに魅惑的な新しい人生への入り口なのだから、望ましいものとされる。

「結局、きちんと整理された心を持つ者にとっては、死は次の大いなる冒険に過ぎないのじゃ」（賢者の石 p438）。

....

魔術師によって用いられているものや、シンボルのすべてを、これらの本に見出すことができる。呪文、呪文書、呪い、魔法薬、魔術、魔よけ、魔法の杖、ロープ、魔女なべ、空飛ぶ箒、その他諸々である。

動物や怪物もすべて登場する。妖精、やぎ、バンシー（家族に死人がでることを泣いて予告する女の精霊）、フクロウ、ドラゴン。

....

有名な心霊術者や初世紀の神々が本のキャラクターの名前として用いられている。これは、主要な異教の神々に子供たちが親しむようにさせ、後に魔術の専門書にも気楽にのめり込むようにさせる。生徒や教師としてこれらの本に登場する名前のうち、目立ったものを挙げてみよう。アドルバートは、紀元745年に魔術で投獄された人物である。パブラッキー（ヘレナ・パブラッキーは20世紀で最も有名な女性心霊術者であり作家である）。主要な異教の神々は、ミネルバ（ローマの女神）、アーガス（ギリシア神話の巨人）、シリウス（「ホーマーのイリアス」の中の魔法使い）、マーリン（アーサー王の魔法使い）、モルガナ（古代ケルト族の死の女神）、クリオドナ（アイルランドの異教の女神、バンシー）、ドラコ（ギリシアの蛇神）、シビル（ギリシア予言の女神）。

他にもあるかもしれない。

この本をこれほどまでに心霊術の知識で満たす必要は、ローリングにはなかったはずだ。唯一考えられることは、彼女自身が悪魔と交信しているということである。ローリングは彼女の役割を果たし、サタンが彼の分を果たしている。雪崩のような勢いのある本の売上げが彼女を世界一リッチな作家にしたのだ。

魔法の力は、私たちが追い求めるべき特別な能力のように描かれている。これは、読者がこの魔術の力を切望するよう仕向ける。

何百人もの子供たちが、家出をしてそこに出席できるように、ホグワーツ魔術学校がどこにあるのかを尋ねる手紙を書いている。彼らは魔女や魔法使いになりたいのだ！

「私たちは皆、自分たちのうちに魔法を持っているのだということを覚えておくことは、大切よ」（ローリン

グ、スカラストティックによるビデオより）。

それは、心霊術者の言葉を反映している。「魔法、マジック、シャーマニズム（死者との交流）、またどんな名で呼ばれていようと、その力はすべての人のうちに潜んでいるのだ」（ドリー・バレンタイン、魔術の復活 p42）。

「笑い話」が極端に恐ろしい。世の中の出版物もキリスト教出版物も、ハリー・ポッターの本がどれだけ愛嬌があり、面白いかをほめそやす。

....

「まあ、そんな堅苦しいこと言わなくても！魔法なんて子供騙しなんですから」とカリフォルニアのメソジスト教会の牧師、レイチェル・ベリー・クラブは言う。「素晴らしく面白いですよ！」彼女の夫であるジョン・クラブ牧師も付け加える。「私たちはハリー・ポッターが大好きです。キリスト教による反対意見に家族全員が憤慨しています」（San Jose Mercury News、1999年11月13日）。

運勢判断、水晶占い、催眠術が、さらに高い知識と精神状態に達するための素晴らしい新方法として強調されている。

『水晶占いは、とても高度な技術ですよ』。夢見るような口調だ。『まず意識と、外なる眼とをリラックスさせることから練習を始めましょう。…そうすれば『内なる眼』と超意識とが顕れましょう』（アズカバンの囚人 p385-386）。

これは、水晶占い師がトランス状態に入る前にすること、まったく同じ方法である！これを読む子供たちの多くは、実際にこれをやり始めてしまう。オカルト信仰と超心理学の専門辞典は、水晶占いは、人のテレパシー能力を解き放つための自己催眠の状態であると言っている（1巻、p285）。

他にも、ポッターの本の中で、シビル（この名前の由来も古代の予言の女神）はハリーと彼の友人たちに、魔法薬占い、幽体離脱、手相占い、算術、数占い、チャーム（魔法の力で魔よけやお守りを授ける呪文）、古代ルーン学（彫られた魔法の文字）などを教えている。

「炎のゴブレット」では、ハリーは本格的な千里眼（予知能力がある人）となる。これもまた当然ながら、読者もそうなりたいと思わせるのだ。

「ハリー・ポッターは、子供たちにオカルトの味を覚えさせる」（ロバート・ナイト、Family Research Council、2000年6月20日）。

シリーズが進む毎に、いたずらとホラーの場面も激しさを増している（「アズカバンの囚人」と「炎のゴブレット」が最悪である）。一方、読者は血生臭さにすっかり鈍感になり、興味を持続するためには、さらに流血が要求されるようになる。ローリングは、あらかじめ方向付

けられた邪悪な目的——可能な限り完全な魔術教育を子供たちに施すこと——に向かって彼らを導いているのである。

「本はだんだん闇を増してきているわ。ハリーは、成長するにつれて、いろいろなことに直面しなければならないの」（ローリング、Online interview, 1999年9月25日）。

「次の本に進む度に、前よりも少し暗く、病的な悲劇になってきているようだ」（スティーブ・ボンタ、New American, 2000年8月28日）。

「死、死別、死の持つ意味というのが全7巻の中心テーマと言えらるわ」（ローリング 同上）。

ハリー・ポッターは11歳の時に入学した。最上級生になる頃には、彼は17歳になる。規則と秩序への反抗に加えて、彼が女の子といろいろやり始めることをローリングは警告している。「ハリーは、成長するにつれて、いろいろなことに直面しなければならないの。…ハリーと友人たちは、彼らにもホルモンがあることを発見するのよ」（ローリング、Online interview, 1999年9月25日）。

彼女は、第4巻で何が待っているのかをほのめかしている。ハリーは、大勢の官能的でエロチックなゴーストや女性、「これまで見たことのないほどの美しい」女性に出会うのだ。

## オカルトへの道

読書には、次のレベルがある。最高のレベルに留まっているべきである。低級なものは、あなたを滅ぼしてしまうからだ。

### 最高レベル

最高のレベルとは、神の靈感による書物である。聖書はあなたを天国に備えさせることができる。神の聖なる御言葉だけが、あなたを天国への道へと導いてくれるのである。

その次に、初世紀における忠実なクリスチアンの話など、偉大なクリスチアンや宣教師の物語がくる。これらは、常に有益である。これらの本を読むことによって、彼らのように終わりまで神に対して真実に生きたいという望みが啓発される。

### 事実

次のレベルは、現在の出来事である。ここには、ニュースが含まれ、その中のいくつかは、私たちが知る価値のあるものと言えるだろう。また、歴史、テクノロジー、科学的事実などもそうである。（ここには、空想というずっと低級なレベルに属する進化論は含まれない）。

### フィクションの世界

その次に低いレベルがフィクションである。その中でも最善のタイプは、霊的危機を警告し、より良いクリスチャン生活を送るように励ます本や記事などである。しかし、あくまで最善は神の言葉である。

この下には、あなたにとって非常に有害である様々なフィクションがくる。ここに分類される本が数えきれないほど存在する。物語は、一般的に現実の世界のことはあるが、悪徳、性的不道徳、その他すべての悪を好むようにさせる。

フィクションを読む人々は、クリスチアンの忍耐と神への信頼をもって日常生活の義務や問題に対処するのが困難に思えるのである。

### 空想の世界

更に低いレベルが空想の世界である。これらは、巨人やグレムリン、おしゃべりをする動物たちや奇妙な生物などが住んでいるおとぎ話の世界で、不可能な事柄を取り扱う物語である。それは非現実的な世界であり、これを好むようになるのは良い事ではない。おとぎ話を読むことによって、更に低いレベルである魔術に陥る備えをするのである。

この分野には、ルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」や、J.R.R.トールキンの「指輪物語」、C.S.ルイスの「Chronicles of Narnia」（洋書）などがある。

この分野と次の分野の両方に、アンデルセンやグリム童話、また、実際の魔術に関する本であるフランク・パウムによる「オズの魔法使い」などが含まれる。

### 霊の世界

ここからは、ホラーの世界である。このレベルに達する時には、すでに魔術に関することを楽しむようになっていく。

魔法使い、吸血鬼など、恐ろしい怪物が登場し、それらは空想ではあるが、あなたを恐怖に陥れ、仕留める為に、心霊術者によって実際に用いられるものである。

アントン・ラベイの「サタン」はこの分野である。

### オカルトの世界

次にくるのが、読者に魔術の詳細を実際に教える本である。これらの本は、魔法使いについて語るだけでなく、彼らの訓練プログラムやどのようにして魔法を使うのかを詳しく説明している。

魔法使いになるための入門書などがそれである。ここに含まれるのが、J.K.ローリングのハリー・ポッター・シリーズである。これらは、初級レベルの知識を与える。

Ordo Anno Mundi(OAM)シリーズは、魔女のための専門書であるが、この中の教えは、ローリングの本よりもほんの少しレベルアップしているだけである。それら



....

このような本は、子供も大人も読むべきではない。それらは悪であり、魂の永遠の幸福をおびやかすものである。

「さらに神は、いわゆる死者の霊との交通と称するものを、すべてはっきりと禁じておられる。ヘブル人の時代にも、今日の心霊術者と同様に、死者と交通すると主張するある種の人々がいた。しかし、他の世界から来たといわれている『口よせの霊』が、聖書には『悪鬼の霊』と断言されている(民数記 25:1-3、詩篇 106:28、コリント第一 10:20、黙示録 16:14 を比較せよ)。口よせの霊を呼ぶことは神が忌みきらわれるものと明言され、死の刑罰をもって厳しく禁じられていた(レビ記 19:31、20:27 参照)。」大争闘下 310

「心霊術の欺瞞的な力と、その影響を受けることの危険性を、正しく認めている者はほとんどいない。多くの者は、単に好奇心を満足させるために心霊術に手を出す。彼らはそれをほんとうに信じているのではない。かえって霊の支配に服することを思うと恐怖で満たされる。しかし彼らは、禁じられた地に危険を顧みないで入っていく。そして強大な破壊者が、彼らの意思に反して彼らの上にその力を動かすのである。彼らが一度でもその心をサタンに命令に従わせる気になると、サタンは彼らを取りこにする。サタンの魅惑的な魔力を、自分の力で断ち切ることは不可能である。信仰の熱心な祈りに答えて与えられる神の力だけが、これらの捕らえられた魂を解放できるのである。」大争闘下 313

「多くの者は、愛する肉親や友人の姿をしてもっとも危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面するであろう。これらの来訪者たちは、われわれの最も感じやすい同情に訴え、自分の主張を支持するために奇跡を行う。われわれは、死んだ者は何事をも知らない、このように現われる者は悪鬼の霊である、という聖書の真理によって彼らに抵抗する用意がなければならない。」大争闘下巻 315

「しかし心霊術は、幾十万、いや幾百万の信者をもち、科学者たちの仲間にも入り込み、諸教会に侵入し、議会の好意を得、王室にまでも侵入している。この巨大な欺瞞は、昔罪とされ、禁じられていた口よせが、新しく変装して復活したものにすぎないのである。」

「異教の迷信は二十世紀の文明以前に消えてしまったと、愚かにも考えられている。しかし、神のみことばと、事実の断固とした証拠は、昔の魔術師の時代と全く同じように現代においても、魔術が行われていることを言明している。古代の魔術の方法は、実際は、現代の心霊術として知られているものと同じである。サタンは死別した友人たちを装って現れ、幾千もの人々の心に近づく。「死者は何事をも知らない」と聖書は、はっきり述べている(伝道の書 9:5)。死者の思い、愛、憎しみは消えうせている。死者は生きている者たちと交わりを持たない。しかし、初めから狡猾なサタンは、人々の心を支配するために、この策略を用いるのである。

...

今日の降神術の霊媒、透視者、占い師たちは、異教の時代の魔術師たちに当たる。エンドルやエペソで語った神秘的な声は、今もなお、その偽りの言葉で人の子らを惑わしている。われわれの目からおおいが取り去られるならば、悪天使たちが人類を欺き滅ぼすために、あらゆる手段を用いているのが見えるであろう。」

患難上 312~313

「人間に神を忘れさせるような力が働いているところではどこでも、サタンがその魔力を働かせているのである。サタンの力に従うとき、知らないうちに、心は迷わされ、魂は汚される。今日の神の民らは、エペソの教会に与えられたパウロの訓戒を、心にとめねばならない。「実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい」(エペソ 5:11)。

エペソ人のおこなっていたような悪があるとあなた方を責めたり、彼らのやっていたような魔術や魔法をあなた方がおこなったというわけではありません。あなた方が降神術の秘法をおこなったり、悪霊との交通をしたというのでもありません。しかしあなた方はあらゆる悪の本源であり、そうしたあらゆる秘法と憎むべきわざを考え出した本人であるサタンと交わってはいなかったでしょうか。

この世の神であり、空中の権をとる者であるサタンのささやきに耳をかたむけていないでしょうか。

彼の虚偽に従い、彼の手先となって改宗前の生活にふさわしいことを働いていたのではないのでしょうか。サタンの代理者となって、広い意味において、墮落天使たちとまじわり、自分自身の魂と他人の魂を欺く術を、彼らから学んでいたのではないのでしょうか。

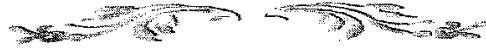
魔術の本はどうしましたか。あなた方は何を読んでいま

大争闘下 248

「世俗の習慣に従うならば、教会が世俗化する。それは決して世俗をキリストに改宗させることにはならない。罪になれてくると、必然的に、それがいとわしくなくなってくる。サタンのしもべたちと交わるものは、やがて、彼らの主人をも恐れなくなる。

したか。どんな時間の使い方をしていましたか。聖書を通して語っておられる神の声をきくために、みことばを研究していましたか。世の中には懐疑、不信、無神論などの種子をまく本がはらんしていて、あなた方は程度の差こそあれそうした本から教訓を学んでいたのですが、

それこそ魔術の本なのです。そうした本は心の中から神を追い出し、魂を真の羊飼であるキリストから離れさせます。」青年 273~274



## ただ師匠を見つめて

大城 愛 提供

ヨーロッパのある都市で、みずばらしい服を着た少年がヴァイオリンを持ってぶらついていた。彼には家も、家族もなかった。毎日、食べ物乞い、寝るところを探し回っていた。この浮浪少年は、音楽に関しては飛び抜けた才能を持っていた。どこから手に入れたか分からないが、古いヴァイオリンを持っていて、時々道端で弾いたりしていた。通りがけの人々は、そのヴァイオリンの音色にうっとりさせられた。終わると、少年の足下に金を投げていくのであった。彼はこうして飢えをしのいで生きのびていた。

同じ都市にある有名な音楽家が住んでいた。たまたまこのみずばらしい少年がヴァイオリンを弾いている道を通った時、まれに聴く美しいヴァイオリンの音色にひかれて立ち止まった。それは本当に使い古したヴァイオリンであった。彼はお客が去ってしまうまで辺りをぶらつき、みんなが去ってから、この少年に近づき話しかけた。

「坊や、どこの子だね？」

「僕、どこの子でもないよ」

「じゃ、どこに住んでいるんだね」

「僕は、住むところないんだよ。寝られるところならどこにでも寝るんだ。」

その人は、しばらく考え込んだ。

「どうだい。このおじさんのところに来ないかね。一緒に住もうよ。私も、ヴァイオリンを弾くんだよ。私が知っているだけ教えてあげるよ」

それを聞いた少年の汚れた顔が輝き、目をまるくして叫んだ。「おじさん、僕、行きたいよ。」

そこで、この有名な音楽家は、この子を自分の家に連れて行った。召使いに、この子をきれいにし、新しい服を着せるように言いつけ、自分の子として育てることにした。

数年、この少年は、この音楽家から特訓を受ける特権にあずかった。彼は、すべてを習おうと心を尽くした。この音楽家も、知っていることすべてを精根をそそいで教えた。

ついに少年は、はじめてのリサイタルに出演する準備ができた。ヴァイオリンの天才児が現れたという噂が町中に広まった。

演奏会の晩、会場はバルコニーまでも満員。

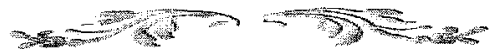
いよいよ、幕が開かれあの少年が舞台に現れた。あごでしっかりヴァイオリンをおさえ、いよいよ演奏開始。聴衆は、聴いたことのない美しい音色に聴き入った。第一部の演奏が終わると、耳をつんざくばかりの歓声。

しかし、なぜかこの少年はそんな拍手喝采にはいっさい無関心の様子で、一点に目を注いだまま、ヴァイオリンを弾き続けた。聴衆は、非常に不思議に思った。だいたい演奏家は拍手を歓迎するものである。しかし、この少年には、いっさい関心がないようであった。

あまりにも不思議に思った一人の人が、少年をこれほどまで引きつけているものは何か調べようと思って、席を立ててバルコニーの階段を上った。

この人は、答えを発見した。一番上の席の一番後ろにあの有名な音楽家がいたのだ。彼は、自分の愛弟子をずっと見守り、頭で合図しながらほほえんでいたのである。まるで「わが子よ、その調子、弾き続けよ」とでも言っているかのように。

少年は、聴衆の拍手喝采、興奮にはいっさいかまわず、弾き続けた。ずっと、視線を上注ぎ、ただ、ただ自分の師匠を喜ばそうと弾き続けていたのである。



# イエスを仰ぎつつ

## ◆ ヘブル 12:2-3

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわなないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。」

## ◆ イエスを仰ぎ、ながめることを忘れなければ弱り果てて意気そそうしないはずである。

### キリストへの道 10, 11

「私どものあがないのために払われた価、私どものためにそのひとり子に死をさえおゆるしになった天の神の測り知れない犠牲を考えると、キリストによって私どもは非常に高潔な状態に到達することができるという観念をおこさずにはおられません。

靈感に動かされた使徒ヨハネは、滅びゆく人類への天の父の愛の高さ、深さ、広さをながめて、心はただありがたさと敬けんの念でいっぱいになり、その愛の偉大さ、優しさを適当に表現する言葉を見いだすことができないで、『わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか』(ヨハネ第一・3:1)と世界に呼びかけています。人はなんと尊い価値をもっていることでしょう。」

## ◆ 神の愛の高さ、深さ、広さをながめることによってどんな観念を持つに至るか？

1. 人間の尊い価値を知る。
2. 非常に高潔な状態に到達することができるという観念をおこさずにはおられなくなる。

### ヨハネ 1:29

「その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』」

### 1 希望 104

「ヨハネは王の美しさをながめて、自分を忘れた。彼は尊厳な聖潔を見て、自分が無能力で無価値なことを感じた。彼は神を仰ぎ見ていたので、人をおそれることなく、天の使者として出て行く用意ができた。彼は王の王で

あられる神の前に低く腰をかがめていたので、地上の君主たちの面前に恐れることなくまっすぐに立つことができた。」

## ◆ イエスを眺めることがヨハネにどんなことをしたか？

1. 自分を忘れた。
2. 自分が無能力で無価値なことを感じた。
3. 人をおそれることなく、天の使者として出て行く用意ができた。
4. 神の前に低く腰をかがめていた。
5. 地上の君主たちの面前に恐れることなくまっすぐに立つことができた。

## ◆ 我々が学ぶに手間取り、また学んでもすぐ忘れがちな真理は何か？

### 1 希望 97

「ザカリヤに息子が生れることによって、アブラハムの子の誕生やマリヤの子の場合と同じように、とうとい霊的な真理、すなわちわれわれが学ぶのに手間どり、また学んでもすぐ忘れがちな真理が教えられるのであった。

われわれは自分自身では何もよいことをすることができない。しかしわれわれのできな

いことが、神の力によって、すなおに信ずる魂のうちになされるのである。約束の子が与えられたのは信仰によってであった。霊的生命が生まれ、われわれが義のわざをすることができるのは信仰によってである。」

## ◆ イエスを眺めることによって自分の無価値さ、無力さを見ることは何と言われているか？

### TM456

「信仰による義認とは何か。それは人間の栄光を塵にして、自分自身では何もできない人間に代わってなされる神の働きである。人間が自らの無価値さを見ると、彼はキリストの義が着せられるように、備えられるのである。」

## ◆ 自分を知る唯一の方法は何か？

## 実物教訓 138

「人間は、自分で、自分のあやまちをさとすることはできない。『心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか』(エレミヤ 17:9)。わたしたちは心に思ってもいないことなのに、いかにも心が貧しいかのように表現してみることができる。また、心の貧しさを神に訴えながら、自分がどんなにけんそんで義に富んでいるかを誇ることができる。ほんとうに自分を知る方法は、ただ一つしかない。それは、キリストをながめることである。人びとが自分の義を誇るの、キリストを知らないからである。神がどんなに清く、尊いかたであるかをめい想することによってはじめて、わたしたちは、自分がどんなに弱く貧しく、またどんな欠点があるかを、そのまま見るようになる。」

### ◆ 1844年の大失望をした再臨信徒はどこにイエスを見出し仰いだか？

#### 初代文集 415

「第三の天使は、『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』と言って、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。....

わたしは、第三の天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。信仰によって彼らが至聖所にはいるときに、彼らはイエスを見出して、新たな希望と喜びを味わうのである。わたしは、彼らが、過去を振りかえって、イエスの再臨の宣言から 1844 年における時の経過に至るまでの、彼らの経験を回顧しているのを見た。彼らは、彼らの失望が解き明かされて、ふたたび喜びと確信に活気づけられた。第三の天使は、過去と現在と未来を照らした。そして、彼らは、神が不思議な摂理によって、彼らを導いてこられたことを知るのであった。

わたしは、残りの民が、イエスに従って至聖所にはいり、箱と贖罪所を見て、その栄光に魅了されているのを示された。それから、イエスは、箱のふたを持ち上げられた。すると、そこに十戒が書かれた石の板があった。...

そして、自分たちが神の律法の違反者であることに気づいて心を悩まし熱心に祈っていた人々は、祝福を受けて、彼らの顔は、希望と喜びに輝いた。彼らは、第三の天使の働きに参加し、厳粛な警告を宣言するために彼らの声をあげた。」

再臨信徒は至聖所にイエスを見出した。十戒を見た。彼らは希望と喜びと確信と祝福を受けた。彼らは第三天使の働きに立ち上がったのであった。

### ◆ 144,000の印が押される前に、神の民はどんな経験をするか？

#### 国指導下 193, 4

「サタンは...近い将来、地上の邪悪な国々を扇動して、神の民を滅ぼそうとするのである。人々は神の律法に背いて、人間の布告に服従するように要求されるのである。神に忠実に服従する人々は、脅かされ、攻撃され、追放される。彼らは、「両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られ」、殺されるであろう(ルカ 21:16)。神のあわれみだけが、彼らの唯一の希望である。祈りが彼らの唯一の防壁である。ヨシュアがみ使いの前で嘆願したように、残りの教会は、心へりくんだり揺るがぬ信仰をいだいて、彼らの助け主イエスによって、赦しと救出を嘆願するのである。彼らは自分たちの生活の罪深さを、十分(完全に)認めている。彼らは自分たちの弱さと無価値さを知っている。そして、今にも絶望するばかりである。

誘惑者サタンは、ヨシュアのそばに立ったように、彼らのそばに立って告発する。彼は、彼らの汚れた衣、彼らの品性の欠陥を指摘する。彼は、彼らの弱さと愚かさ、忘恩と罪、彼らがキリストと似ておらず、贖い主の栄えを汚したことを示す。彼は、彼らの状態は絶望的で、彼らの罪のしみは洗いきることができないと思わせて、恐怖に陥れようとする。彼は彼らの信仰を失わせて、彼の誘惑に屈服させ、神への忠誠から引き離そうと望むのである。

.....

終末の時にあって、神の民は地に行われる憎むべきことを、嘆き叫ぶのである。彼らは涙を流して、神の律法をふみにじる危険について悪人たちに警告を発し、言語に絶した悲しみをもって、主の前にへりくんだり罪を悔いる。悪人たちは彼らの悲しみをあざけり、彼らの厳粛な訴えを嘲笑する。しかし、神の民の苦悩と屈辱とは、罪の結果失われた品性の力と高貴さを、彼らが回復しつつある間違いのない証拠である。」

### ◆ 何がこのような産みの苦しみを生じさせるのか？

#### 国指導下 195

「彼らが罪のはなはだしい邪悪さをはっきり認めるのは、彼らがキリストに近づき、彼らの目がその完全な純潔さを凝視するからである。

柔和と謙遜が、成功と勝利の条件である。栄光の冠は、十字架のもとにひざまずく者を待っている。」

### ◆ その結果、罪の除去、神の印を受ける。それは完全にして永久的なものか？

#### 同 196

「神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願するときに、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」という命令が出される。そして、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」という励ましの言葉が語られる(ゼカリヤ書 3:4)。キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民にせ

着

られる。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。「清い帽子」が彼らの頭にかぶせられた。

サタンが告発をしていたときに、目には見えないが、聖天使たちがあちこち行きめぐって、忠実な人々に生ける神の印を押していた。この人々は、その額に父なる神の名を記されて、小羊とともにシオンの山に立つのである。彼らはみ座の前で新しい歌を歌うが、それは地上から贖われた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができない。「彼らは、……小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにさげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった」(黙示録 14:4, 5)。ここでみ使いの言葉が完全に成就する。」

◆ イエスを眺める者たちに最後のあがないでどんなことが成就するか？ 国と指導者下 193-196 の描写と大争闘下 216-217 と比較してください。

大争闘下 216

「イエスはご自分のために「ゆるしと善認の完全と完成(私訳)」を求められる。…こうして新しい契約が完全に成就する。」

◆ 至聖所で、今も執り成すイエスを眺める者たちに何が与えられるか？

ゼカリヤ 12:10~13:1

わたしはダビデの家およびエルサレムの住民に、恵みと祈の霊とを注ぐ。彼らはその刺した者を見る時、ひとり子のために嘆くように彼のために嘆き、ういごのために悲しむように、彼のためにいたく悲しむ。その日には、エルサレムの嘆きは、メジドの平野にあったハダテ・リンモンのための嘆きのように大きい。12:12 国じゅう、氏族おのおの別れて嘆く。すなわちダビデの家の氏族は別れて嘆き、その妻たちも別れて嘆く。ナタン家の氏族は別れて嘆き、その妻たちも別れて嘆く。レビ家の氏族は別れて嘆き、その妻たちも別れて嘆く。シメイの氏族は別れて嘆き、その妻たちも別れて嘆く。その他の氏族も皆別れて嘆き、その妻たちも別れて嘆くのである。

13:1 その日には、罪と汚れとを清める一つの泉が、ダビデの家とエルサレムの住民とのために開かれる。

1. 恵みと祈の霊とを注ぐ
2. 罪と汚れを清める後の雨 (使徒 3:19、イザヤ 4:2)

◆ 至聖所において神の小羊が今なお十字架の苦しみをしておられるのを見るとき、どんな経験が信者に与えられるか？

初代文集 161-162

「わたしは、多くの人々が集まっている神殿を見ている夢を見た。終末のときに、その神殿に逃れた人々だけが救われるのであった。外に残っている者はみな、永遠に失われるのであった。外で、自分勝手な道を進んでいた群衆は、神殿の中に入る人々を嘲り、軽べつし、この安全計画は巧みな欺瞞であって、実際には避けなければならぬ危険などは何も無いのだ、と彼らに言った。彼らは、幾人かの人々を捕えて、彼らが神殿内に急いで入ろうとするのを妨げることさえた。……

わたしは回りの群衆のことには、少しも気づかなかった。建物の中に入ってみると、神殿は巨大な一つの柱に支えられていて、これに、全身傷つき、血が流れている小羊が縛りつけられているのを、わたしは見た。そこにいたすべての人々は、この小羊が、われわれのために裂かれ傷ついたことを知っているように思われた。神殿に入った人々はみな、その前に来て罪を告白しなければならなかった。

教育 311-312

「福音宣伝の働きがはかどったり妨げられたりするとき、われわれはその結果を自分自身や世人とむすびつけて考えるが、これを神とむすびつけて考える人は非常に少ない。罪のために創造主が受けられた苦しみを思う人は非常に少ない。全天はキリストと苦しみを共にしたが、しかしその苦悩はキリストが人性をとって現われたときに始まったのでもなければ終わったのでもない。十字架は、罪が初めてあらわれたときから神の心に生じた苦痛を、われわれの鈍い感覚に示すものである。人が正しいことから離れるたびに、残酷な行ないをするたびに、人性が神の理想に到達できないたびに、神は悲しまれるのである。イスラエルが、神から離れた当然の結果として、敵に征服され、残虐と死という災難がふりかかったとき、「主の心はイスラエルの悩みを見るに忍びなくなった。」「彼らのすべての悩みのとき、主も悩まれて、いにしえの日、つねに彼らをもたげ、彼らを携えられた」と言われている。

神のみたまは「みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さる」とある。「被造物全体が、……共にうめき共に産みの苦しみを続けている」とき、限りない天父のみ心は同情に痛むのである。この世界は広いラザロの家(注・貧しい病人の収容所)のようなもので、われわれはその悲惨な光景を心に思うことすら苦痛である。その現実の姿をみつめるとき、重荷はあまりに大きいであろう。しかし神はそのすべてを感じておられるのである。神は、罪とその結果を滅ぼすために、最愛のひとり子をあたえ、み子との協力によってこの悲惨な光景を終わらせる能力をわれわれにお与えになっている。」

◆ 聖所においてイエスを仰ぐことと、至聖所においてイエスを仰ぐことにどんな違いがあるか？

初代文集 124-127

「わたしは御座を見た。そして、その上に父なる神と御子が座っておられた。わたしは、イエスのお顔をじっと見つめて、彼の美しい姿を賞賛した。わたしは、父なる神のお姿を見ることはできなかった。それは、栄光に輝く雲が、神をおおっていたからである。わたしは、父なる神が、イエスご自身と同じような姿をしておられるかを、イエスにたずねた。イエスは、同じ姿であると言われた。しかし、わたしは、その姿を見ることができなかった。「もしあなたが神のお姿の栄光を見たならば、生きていくことはできない」とイエスが言われたからである。わたしは御座の前に、再臨信徒たちを、すなわち教会と世俗とを見た。わたしは二つの群れを見た。

一つは、深い関心をもって、御座の前に頭を下げていた。もう一つの群れは、無関心で不注意な態度で立っていた。御座の前で頭をたれていた人々は、祈りをささげて、イエスを仰いだ。するとイエスは、父なる神を仰ぎ見て、神に訴えておられるようすであった。光が、父なる神から御子に輝き、そして御子から、祈っている群れへと輝いた。その時、わたしは、特別に明るい光が、父なる神から御子に輝き、御子から御座の前にいる人々へと及んでいくのを見た。しかし、この大きな光を受けられるものは、ほとんどなかった。多くの人は、その下から出て来て、直ちにそれに反抗した。

他の人々は関心を示さず、その光を受けられなかった。そのため、光は彼らから去っていった。ある人々は、それを受け入れて、祈っている群れのところへ行行って、彼らとともに頭を下げた。この群れはみな、光を受けて喜び、彼らの顔は栄光に輝いた。

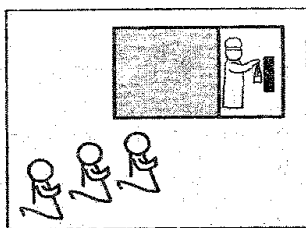
わたしは、父なる神が御座から立たれて(補遺参照)、炎の車に乗って幕のなかの至聖所にはいられ、お座りになるのを見た。それから、イエスが御座から立ち上がられた。そして、頭をたれていた人々の大部分が、彼とともに

に立ち上がった。わたしは、イエスが立ち上がられた後で、無関心な群集には、イエスから一条の光も輝かなかったのを見た。そして、彼らは全くの暗黒の中に取り残された。イエスが立たれたときに立った人々は、彼が御座を立て、彼らを少しばかり導き始められるのをじっと見つめていた。するとイエスは、彼の右の手を上げられた。そして、われわれは、彼がうるわしい声で「ここで待っていないさい。わたしは、わたしの父のところへ行行って御国を受けてくる。あなたがたの衣を汚さないようにしていなさい。しばらくすれば、わたしは婚宴に帰って来て、あなたがたを、わたしのところに迎えよう」と言われるのを聞いた。そのとき火の炎のような輪がついた雲の車が、天使たちにかこまれて、イエスがおられるところに来た。彼は、その車に乗って、父なる神が座っておられる至聖所にはいっていかれた。そこでわたしは、父なる神の前に立っておられる大祭司イエスを見た。彼の衣の縁には、鈴とざくろとがあった。

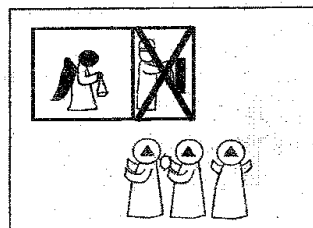
イエスとともに立った人々は、至聖所のイエスを信仰をもって仰いで、「わが父よ、あなたの霊を与えてください」と祈るのであった。すると、イエスは、彼らに聖霊を注がれた。その息吹のなかに、光と力、そして多くの愛と喜びと平和があった。

わたしは、御座の前でまだ頭をたれている人々を見ようと思ってふりかえった。彼らはイエスがそこを去られたことを知らなかった。サタンは御座のそばで、神の働きを行おうとするかのように見えた。わたしは、彼らが、御座を見上げて、「父よ、あなたの霊をお与え下さい」と祈るのを見た。するとサタンは、彼らに汚れた力を吹きこむのであった。それには、光と多くの力とがあった。しかし、あたたかな愛、喜び、平和はなかった。サタンの目的は、神の子供たちを欺いて、彼らを引きもどし、惑わすことであった。」

1. 至聖所に向かってイエスを仰ぐ者たちに聖霊が注がれた。
2. イエスのおられない聖所に向かって聖霊を求めたら、サタンの霊が注がれた。



至聖所に向かって祈る人々



聖所に向かって祈る人々

今日の騒ぎは、その時の小手調べであろう。「また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。」

マタイ 24:6

「神の戒め(statutes,定め-英文)を軽蔑するために、サタンは聖書の教えを曲解し、そうすることによって聖書を信じると告白する幾千の人たちの信仰に誤謬を混ぜてきた。真理と誤謬の最後の大争闘は、長い間続いてきた神の律法に関する論争の最後の戦いにほかならない。われわれは今や、この戦い、すなわち、人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦いに入っているのである。」

大争闘下 344

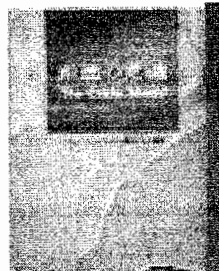
聖書に対する不信が、キリスト教界にさえ蔓延している。神学者、牧師の間にも本当に聖書を絶対的な神の言葉として信じている人は非常に少ないという。聖書が全く信頼に価する書物であることを考古学上の発見は驚くほど明確に証明している。聖書に絶対的な信仰を据えておかないと、いとも簡単に押し流されてしまう危険で欺瞞に満ちた時代なのである。

アンカー誌の記事が純粋な信仰の回復の一助となることを願うものである。



### 現代の真理

セブンスター・アドベンチストの立場を明確にするのは、この真理！万事がこの真理の理解にかかっている！  
定価 ¥1,500



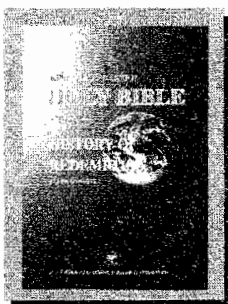
### 前途の危機

「われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。...しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。」大争闘下 359, 360  
質問に対して証の書からの答えを収録。  
ホワイト刊行協会長 ロバート・オルソン編集。定価 ¥1,800

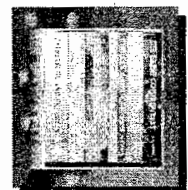


### 終末時代の音楽戦略

香港アドベンチスト・カレッジ、ルディ・ルイズ教授著  
人心を感得すサタンの音楽戦略に対して預言的、終末的な観点から警告を発する。  
音楽、歌、声について証の書からの引用文を巻末に収録。  
定価 ¥400

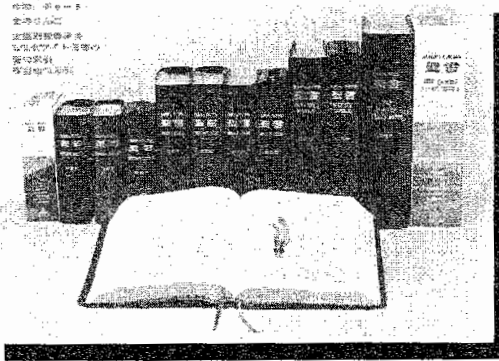


- 英文：Holy Bible(KJV) and the Spirit of Prophecy  
大争闘シリーズ、祝福の山、キリストの実物教訓、キリストへの道  
聖書には、証の書の参照ページが記されている。  
革製—¥5,500
- 英文：大争闘シリーズ+SC,MB,COL—¥4,000
- 英文：ポケット大争闘シリーズ+SC,MB,COL—¥4,000



## 内容：

E.G.ホワイト注解(翻訳・出版されていないもの)  
 脚注  
 引照付き  
 地図、チャート  
 金のりんご  
 主題別聖書研究  
 E.G.ホワイト著書の聖句索引  
 聖書語句索引

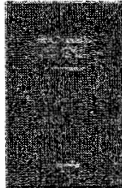


この「スタディ バイブル」は、弊社が1991年度から初版(英文)を、1995年度に第二版(標準英文版)を発行して以来、年月の重なるに従って、その重要性が増してきました。その後、数多くの出版社を通じて韓国語版(1995年)とスペイン語版(1998年)が出版されました。それからアメリカのミッション出版社からはReview and Herald 印刷所を通じて現在までの出版が続いており、また、数多くの国々で各種の方言での出版が続いています。「スタディ バイブル」は10余年の歴史の中で多くのキリスト者の方々に貴重な聖書として評価されています。

### キリストとサタンの大争闘 E.G. ホワイト著



文庫版  
 注文コード：GC-B  
 価格：600円(送料別)  
 サイズ：11cm×18cm  
 \*100冊以上は500円



ハードカバー  
 注文コード：GC-H  
 価格：1,200円(送料別)  
 サイズ：12cm×19cm  
 \*50冊以上は900円



ポケット版  
 注文コード：GC-P  
 価格：1,800円(送料別)  
 サイズ：9.5cm×13.5cm  
 重さ：250g  
 平装紙、プラスチック付き  
 \*30冊以上は1,500円

### ご注文は：

サンライズ三倉  
 〒834-1401 福岡県八女郡矢部村北矢部 7339  
 Tel & Fax: 0943-47-2214  
 サンライズ・ミニストリー  
 〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471  
 Tel: 0980-56-2783 Fax: 0980-56-2881 Email: sanchor.cosmos.ne.jp  
 郵便振り込み番号：02080-0-12121

### 春のセミナー 「開かれた聖所に入る」

ゲストスピーカー： ジョン・スキート

- 沖縄今帰仁ライフスタイル・センター 4月16日(水)～23日(水)  
 詳しくは別紙をごらんください。
- 赤城山学園 4月25日(金)～27日(日)  
 連絡先：Tel: 027-283-6315 Fax: 027-283-7571